

リレー連載生ヒストリー—温故知新
第10回 原田義則さん (65期)

【役職・就任期間】

2013年7月より 1年間 滝澤執行部 副幹事長 (IT担当)
2014年7月より 3年間 高梨執行部 副会長 (IT担当)
2017年7月より 3年間 上原執行部 副会長 (IT担当)
2020年7月より 近藤執行部 監事



【関東同窓会運営参画のきっかけ】

切っ掛けは2013年7月に新規開設した「65期のホームページ (HP)」の手作り製作経験にあります。私は(株)日立製作所在職時には当時基礎研究所の所長だった第13代会長丸山暎一さん(51期)の直接の部下だったのですが、上原昇さん(65期、第19代会長)が運営してくれる同期会には折に触れて参加していたものの関東同窓会への積極的参加はありませんでした。所が切っ掛けは突如現れました。計算機は学部学生だった1960年代後半から必要に迫られて研究上、多用していましたので計算機には親近感を持っていました。また、日立製作所というスーパーコンピューターを製造しているメーカーにいたのでITには詳しいのだろうと思われ(実際には近年のITCにはさほど詳しくはなかったのですが)、2012-3年に同期会のHPを作り変えてくれと上原さんから要請され、一から手作りしました(現在も管理者として活動中)。この成功体験(?)からちょっと自信が付いた頃に当時副会長だった上原さん達から石井則男さん(64期)が管理をしていた関東同窓会のHPの引継ぎと全面的更新を要請されました。当時在籍した大学の某センターでセンターのHPを手作りし、サクサクと運用していたITCに詳しい同僚に意見を聴いたところ「難しくない」との事だったので「何とかなるだろう」と軽い気持ちで2013年にIT担当の副幹事長職を引き受けました。当時関東同窓会のIT関係の企画運営のトップだった笠井徳爾さん(61期)をサポートする形で将来の発展性と管理のし易さも考慮に入れた構成とコンテンツ等のデザイン作業の中心となり、進めました。最終的には同期会のHPのような手作りはせずに、上記センターのHPを作成してくれた筑波大学発のITベンチャーに細かい作業は委託しました。その後、IT担当の副会長となり、橋詰現副会長にバトンタッチする迄の7年弱の間、HPのブラッシュアップとメンテナンスに注力しました。

【一番印象に残っている出来事】

総会後の懇親会での同期(65期)の応援団によるリードと校歌斉唱です(次ページに写真)。65期応援団には懇親会で何度か登壇して貰っているのですが、これを聴くと上田高校入学直後の63期応援団がリーダーだった応援練習の強烈な思い出が呼び起こされます。当

時は余り良い印象では無かったのですが、50年経ってから聴くと懐かしさと感慨が込み上げて来ます。

【一番苦労したこと】

HPのメンテナンス担当者として同窓会の組織・活動の最新情報の取得と公開、会報を中心としたアーカイブスの質の向上に注力しました。コンテンツの新鮮さ正確さはHPの命です。お陰でHTML言語を初めとして幾つかの

ITスキルに精通することが出来ました。その他、不正アクセス対策、知的財産権（著作権）侵害対策にも注力しました。



【同窓会への想い】

同窓会活動は歯を食いしばってやるのではなく、楽しみながらやる「遊び」、ないしはボランティア活動であるべきです。上記の「一番苦労したこと」で述べたことは確かに相当量の時間も取られたのですが、一方で責任感・遣り甲斐も強く感じられ、全く「苦痛」ではありませんでした。楽しみを感じずにただ単に義務感に捉われて作業をしているのでは長続きしないし、運営に協力する人も減る一方だろうと思います。「同窓生にサービスを提供する」だけでなく、運営すること自体にもっと楽しさを感じられるような運営方法を模索すべきではないでしょうか。

最後に一つ「同窓会活動の有効性」を示唆する話題を一つ。昨今、ウィーク・タイズ（weak ties:弱い紐帯）理論が流行っています。ウィーク・タイズ理論とは、「家族や親友、同僚等の社会的つながりが強い人よりも、適度に顔を合わせる程度の人間関係の方が有益な情報をもたらしてくれる可能性が高い」という理論で、同窓会活動は正にウィーク・タイズ理論の有効性を示す場になるかと思えます。同窓会活動における弱い人的ネットワークの構築と活用は「就職活動や仕事に活かす」などの実利的効果のみならず、趣味の形成や起業、新しいキャリアの開拓で有効に働くのではないかと期待しています。